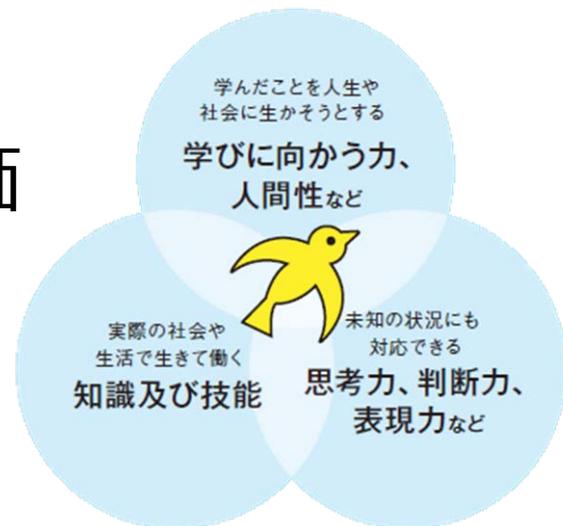


新学習指導要領に対応した学習評価 (小学校 体育科)

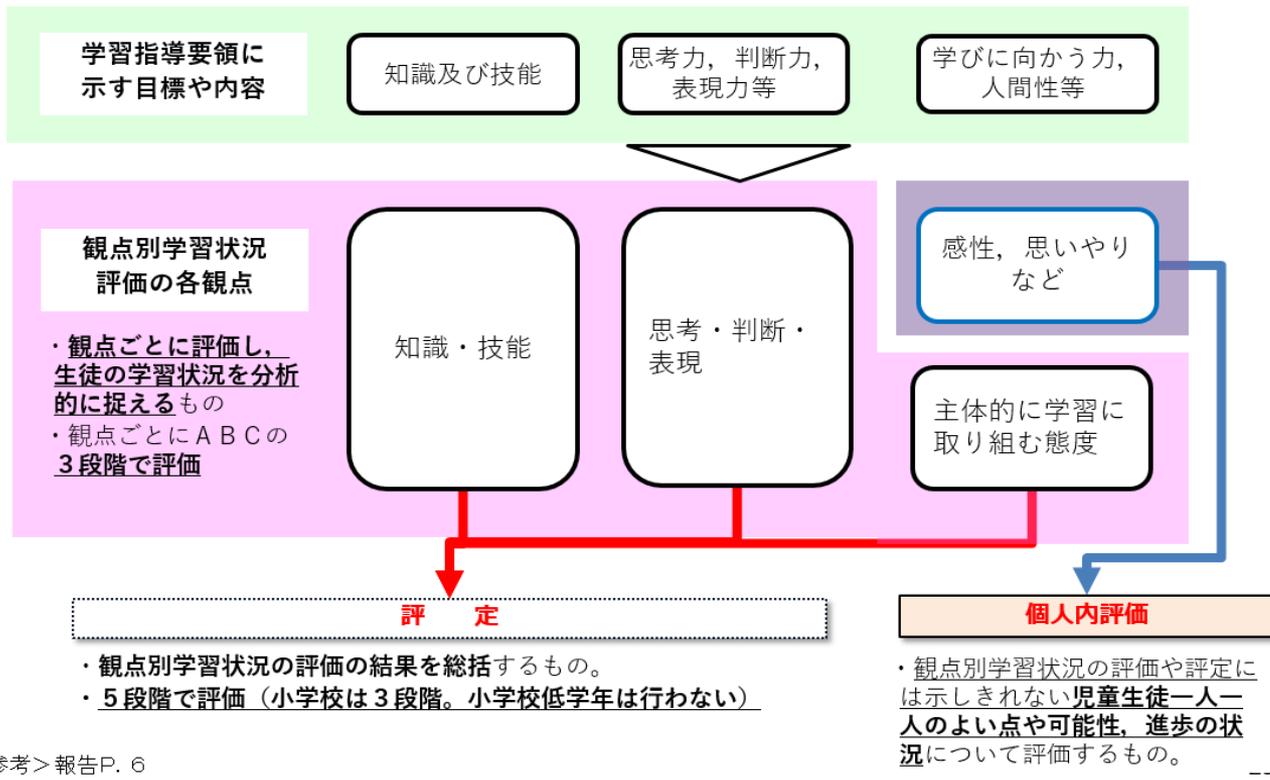


スポーツ庁政策課

教科調査官 横嶋 剛
塩見 英樹

学習評価の基本構造

- ・各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- ・したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



平成29年改訂で、学習指導要領の目標及び内容が資質・能力の三つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別学習状況の評価の観点については、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されています。

▷ 第2編

「内容のまとめりごとの評価規準」を
作成する際の手順

▷ 第3編

単元ごとの学習評価について
(事例)

第2編 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

小学校体育科における「内容のまとめり」

〔第3学年及び第4学年〕

- A 体づくり運動
- B 器械運動
- C 走・跳の運動
- D 水泳運動
- E ゲーム
- F 表現運動
- G 保健（1）健康な生活
- G 保健（2）体の発育・発達



第2編 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の手順

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際の基本的な手順

15p

学習指導要領に示された教科及び学年（又は分野）の目標を踏まえて、「評価の観点及びその趣旨」が作成されていることを理解した上で、

- ① 各教科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。
- ② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

① 各教科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。

30p

B 器械・器具を使つての運動遊び

- (1) 次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けること。
 - ア 固定施設を使った運動遊びでは、登り下りや懸垂移行、渡り歩きや跳び下りをする事。
 - イ マットを使った運動遊びでは、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をする事。
 - ウ 鉄棒を使った運動遊びでは、支持しての揺れや上がり下り、ぶら下がりや易しい回転をする事。
 - エ 跳び箱を使った運動遊びでは、跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ下りをする事。
- (2) 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。
- (3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。

② 【観点ごとのポイント】を踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

31p

B 器械・器具を使つての運動遊び

○「知識・技能」のポイント

知識 「～の行い方を知っている。」

技能 「～の動きを身に付けている。」

○「思考・判断・表現」のポイント

思考・判断 「器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫している。」

表現 「考えたことを友達に伝えている。」

○「主体的に学習に取り組む態度」のポイント

運動遊びに進んで取り組もうとし、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、場や器械・器具の安全に気を付けたりしている。

▷ 第2編

「内容のまとめりごとの評価規準」を
作成する際の手順

▷ 第3編

単元ごとの学習評価について
(事例)

第3編 単元ごとの学習評価について（事例）

48p
49p

運動領域			保健領域		
1	マットを使った運動遊び（第2学年）	指導と評価の全体像	1	体の発育・発達（第4学年）	指導と評価の全体像
2	高跳び（第4学年）	知識・技能	2	心の健康（第5学年）	知識・技能
3	タグラグビー（第3学年）	思考・判断・表現	3	病気の予防（第6学年）	思考・判断・表現
4	表現（第5学年）	主体的に学習に取り組む態度	4	健康な生活	主体的に学習に取り組む態度
5	体ほぐしの運動（ほか）（第6学年）	複数の単元			

▷ 運動領域 事例 1

「マットを使った運動遊び」 (第2学年)

▷ 保健領域 事例 6

「体の発育・発達」 (第4学年)

評価の進め方

1 単元の目標を作成する



2 単元の評価規準を作成する



3 「指導と評価の計画」を作成する



授業を行う



4 観点ごとに総括する

【手順1】単元の目標を設定する

50p

- (1) **マットを使った運動遊びの行い方を知るとともに、いろいろな方向に転がったり、手で支えての体の保持や回転をしたりして遊ぶことができるようにする。**【知識及び技能】
- (2) マットを使った**簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。**【思考力、判断力、表現力等】
- (3) マットを使った**運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とも仲よく運動をしたり、場の安全に気を付けたりすることができるようにする。**【学びに向かう力、人間性等】

- ・ 学習指導要領本文を参考に設定（太字は引用部分）
- ・ 単元の目標の語尾は、「～することができるようにする」

【手順2】単元の目標から評価の視点を整理する

51p

- ・ 単元の目標から評価の視点を整理する際には、児童の実態等を考慮しつつ、学習指導要領本文及び改善等通知の「観点の趣旨」をもとに作成する。
- ・ 語尾は、「できる」（技能）、「～している」（知識、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」）、「～しようとしている」（主体的に学習に取り組む態度の「健康・安全」以外）と表記する。
- ・ 「知識・技能」については、知識の評価規準と技能の評価規準に分けて設定する。
- ・ 「思考・判断・表現」については、「思考・判断」の評価規準と「表現」の評価規準に分けて設定する。
- ・ 「主体的に学習に取り組む態度」については、愛好的態度、公正・協力、責任・参画、共生、健康・安全の各項目に分けて設定する。

【手順3】指導計画を立案する

- ・ 児童の実態を踏まえ、単元の目標の達成に向けた指導計画を作成する。
- ・ 指導する内容の順序や指導にかけることができる時間等を考慮し、無理のない計画に留意する。

時間	1	2	3	4	5	6
0 ↓ 45	<ul style="list-style-type: none"> ・ オリエンテーション ・ 感覚づくりの運動遊び紹介 ・ 学習カードの使い方 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前転がり ・ 後ろ転がり ・ だるま転がり ・ 丸太転がり <p>転がり方を組み合わせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腕支持での川跳び ・ 腕支持での平均台跳び <p>川跳びからの腕立て横跳び越し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ さかさまになる動き <p>さかさまからのブリッジ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループでマットランド ・ 作ったランドをグループ間で紹介し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他のグループが作ったランドで楽しむ ・ もっと楽しいランドになるよう工夫する。

【手順4】単元の評価規準を作成する

- 「内容のまとめりごとの評価規準」と指導計画における児童の活動を考慮し、児童の学びの姿としてより具体化した評価規準を作成する。
- 各観点とも複数個に細分した評価規準を想定するが、順序性を示すものではないことに留意する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①マットを使った運動遊びの行い方について言ったり、実際に動いてみたりしている。 ②マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。 ③手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりして遊ぶことができる。	①坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がることができるような場を選んでいる。 ②腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きを選んでいる。 ③友達のよい動きを見付けたら、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書いたりしている。	①動物の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ②順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動遊びをしようとしている。 ③場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。 ④場の安全に気を付けている。

第3編 単元ごとの学習評価について（事例）

52p

【手順5】指導と評価の計画を作成する

- ・ 単元計画のうち、いつ、どの場面で、何をどのように見取るのかの計画を立てる。
- ・ 指導計画の下に評価の計画を重ね合わせ、指導と評価の計画を作成する。
- ・ 1時間につき1～2程度の評価観点にするなど、評価をするに当たり無理のない計画を立てる。

時間	1	2	3	4	5	6
0	オリエンテーション ・学習内容の確認 ・安全の約束の確認 ・場の準備や片付けの仕方の確認	場の準備→準備運動（感覚づくりの運動遊び）				
		ころころランド ・前転がり ・後ろ転がり ・だるま転がり ・丸太転がり	びよんびよんランド ・腕支持での川跳び ・腕支持での平均台跳び	さかさまランド ・跳び箱を使って ・肋木を使って	マットランドで楽しもう グループでマットランドの場を作って楽しむ。 作ったランドをグループ間で紹介し合っ て楽しむ。	他のグループ が作ったラン ドで楽しむ。 もっと楽しい ランドになる よう工夫する。 動きのバリエ ーションを楽し みる。
		振り返り→遊びのバリエーションの紹介				
	感覚づくりの 運動遊びの紹 介	転がり方を組 み合わせる。	川跳びからの 腕立て横跳び 越し	さかさまから のブリッジ		
45	振り返り→整理運動→片付け					
知※		② 観察・ICT	③ 観察	① 観察		
思			③ 観察・カード		① 観察	② 観察
態	④ 観察	③ 観察		① 観察・カード	② 観察・カード	

5 毎時間の観点別評価の進め方

56p

（2）評価後の指導の継続と再評価の重要性

時間	1	2	3	4	5	6	
0	オリエンテーション ・学習内容の確認 ・安全の約束の確認 ・場の準備や片付けの仕方の確認 感覚づくりの運動遊びの紹介	場の準備→準備運動（感覚づくりの運動遊び）				マットランドで楽しもう	
		ころころランド ・前転がり ・後ろ転がり ・だるま転がり ・丸太転がり	びよんびよんランド ・腕支持での川跳び ・腕支持での平均台跳び	さかさまランド ・跳び箱を使って ・肋木を使って	グループでマットランドの場を作って楽しむ。 作ったランドをグループ間で紹介し合っ て楽しむ。	他のグループが作ったランドで楽しむ。 もっと楽しいランドになるよう工夫する。 動きのバリエーションを楽しむ。	
		振り返り→遊びのバリエーションの紹介					
45	振り返り→整理運動→片付け						
知※		② 観察・ICT	③ 観察	① 観察			
思			③ 観察・カード		① 観察	② 観察	
態	④ 観察	③ 観察		① 観察・カード	② 観察・カード		



▷ 運動領域 事例 1

「マットを使った運動遊び」
(第2学年)

▷ 保健領域 事例 6

「体の発育・発達」
(第4学年)

単元の目標を設定する

76p

- (1) 年齢に伴う体の変化と個人差，思春期の体の変化，体をよりよく発育・発達させるための生活について理解することができるようにする。
【知識及び技能】
- (2) 体の発育・発達について，課題を見付け，その解決に向けて考え，それを表現することができるようにする。【思考力，判断力，表現力等】
- (3) 体の発育・発達について，健康の大切さに気付き，自己の健康の保持増進に進んで取り組むことができるようにする。
【学びに向かう力，人間性等】

・単元の目標の語尾は，「～することができるようにする」

単元の評価規準作成のポイント

44p

【知識・技能】

○「**知識**」については、解説の「～理解している」と記載してある部分の文末を「～について、理解したことを言ったり書いたりしている」として、評価規準を作成する。

○「**技能**」については、解説の「～できるようにする」と記載してある部分の文末を「～（行い方・対処）について、理解したことを言ったり書いたりしているとともに、（～が）できる」として、評価規準を作成する。

単元の評価規準作成のポイント

45p

【思考・判断・表現】

○学習指導要領解説における「2 内容」の「思考力，判断力，表現力等」に関する記載を基に評価規準を作成する。その際，〔例示〕に記載された内容を踏まえるとともに，実際の学習活動に合わせ，文末を「～している」として，作成する。

【主体的に学習に取り組む態度】

○改善等通知における「主体的に学習に取り組む態度」の「評価の観点及びその趣旨」に示された内容等を踏まえ，文末を「～しようとしている」として，評価規準を作成する。

単元の評価規準を作成する

76p

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①身長や体重など年齢に伴う体の変化と個人差について、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>②思春期には、体つきに変化が起こり、人によって違いがあるものの男女の特徴が現れることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>③思春期には、初経、精通、変声、発毛が起こり、異性への関心も芽生えること、これらは個人差があるものの、大人の体に近づく現象であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>④体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には、体の発育・発達によい運動、バランスのとれた食事、適切な休養及び睡眠などが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>①体の発育・発達について、身長や体重などの年齢に伴う体の変化や思春期の体の変化、体の発育・発達に関わる生活の仕方から課題を見付けている。</p> <p>②体の発育・発達について、自己の生活と比べたり、関連付けたりするなどして、体をよりよく発育・発達させるための方法を考えているとともに、考えたことを学習カードなどに書いたり、発表したりして友達に伝えている。</p>	<p>①体の発育・発達について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習や教科書や資料などを調べたり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習に進んで取り組もうとしている。</p>

・「内容のまとまりごとの評価規準」と指導計画における児童の活動を考慮し、児童の学びの姿としてより具体化した評価規準を作成する。

・各観点とも細分した評価規準を想定するが、順序性を示すものではないことに留意する。

指導と評価の計画を作成する

- 単元計画のうち、いつ、どの場面で、何をどのように見取るのかの計画を立てる。
- 指導計画の下に評価の計画を重ね合わせ、指導と評価の計画を作成する。
- 1時間につき1～2程度の評価観点にするなど、評価をするに当たり無理のない計画を立てる。

時	ねらい	知	思	態	評価方法
1	【ねらい】 ○ 身長，体重など年齢に伴う体の変化と個人差について，理解できるようにする。	①			【知識①】 観察・学習カード
2	【ねらい】 ○ 思春期には，体つきに変化が起こり，人によって違いがあるものの男女の特徴が現れることについて，理解できるようにするとともに，思春期の体の変化から課題を見付けることができるようにする。	②	①		【知識②】 観察・学習カード 【思考・判断・表現①】 観察・学習カード
3	【ねらい】 ○ 思春期には，初経，精通，変声，発毛が起こることなどについて，理解できるようにするとともに，体をよりよく発育・発達させるための方法を考え，発表することができるようにする。	③	②		【知識③】 観察・学習カード 【思考・判断・表現②】 観察・学習カード
4	【ねらい】 ○ 学習に進んで取り組むとともに，体をよりよく発育・発達させるための生活の仕方には，体の発育・発達により運動，バランスのとれた食事，適切な休養及び睡眠などが必要であることを理解できるようにする。	④		①	【知識④】 観察・学習カード 【主体的態度】 観察・学習カード

・「知識・技能」，「思考・判断・表現」については，各授業後や単元終了後に学習カードやノートの記載等からも評価することで評価の信頼性を高めることができる。

・「主体的に学習に取り組む態度」については，単元全体で評価していくため破線で示している。

毎時間の観点別評価の進め方

事例では、単元の評価を、効果的・効率的に進めるために、3観点の評価を重点化し、1時間の評価の観点を多くとも2観点としている。また、「主体的に学習に取り組む態度」は、最後の時間に総括として評価することとした。

・「知識・技能」の評価については、毎時間評価している。児童の発言を観察から評価するとともに、1時間の学習の軌跡として、学習カードなどから評価していくことが考えられる。

・「思考・判断・表現」の評価については、既存の知識や気付きを基に、課題を発見する「思考・判断」について観察や学習カードから評価する。自己の生活と比べたり、関連付けたりするなどして、体をよりよく発育・発達させるための方法を考える「思考・判断」及び学習を通して考えたことを友達と伝え合う「表現」について観察や学習カードから評価することが考えられる。

・「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、学習内容に関心をもつことのみならず、よりよく学ぼうとする意欲をもって学習に取り組む態度を評価する必要がある。

新学習指導要領に対応した学習評価 (小学校 体育科)

スポーツ庁政策課
教科調査官

横嶋 剛
塩見 英樹